

不当処分策動粉碎

職場からの総決起を確認!



80.5.10
NO.424

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二二五八九(公衆電話)二七二〇七

新小岩支部で職場集会開催

「本部」反動分子による四・一五暴力スト破壊襲撃を口実とした、国鉄当局の不当処分策動粉碎にむけ、新小岩支部は五月八日、職場集会を開催した。五・二津田沼支部職場集会の成功に次いでかちとられたこの集会は、本部役員も参加し、圧倒的多数の組合員を集めて、全体の意志統一をはかるとともに、五月総決起体制を確立し、成功裡のうちに終了した。続いて十四時より、支部執行部・組合員が参加する中で集団現場長交渉を行い、不当処分策動に対する全組合員の怒りと追及の闘いが展開された。

処分粉碎・反合勝利を基軸に!

支部長基調報告
集会は、十二時過ぎより、機関区講習室に、続々と組合員が集結する中で、若林書記長の司会で進められた。

目黒選挙を利用した組織破壊策動を許すな!

松崎支部長の挨拶につづいて、本部派遣の関執行委員より「八〇春闘にみられる資本の攻撃は、春闘そのものを許さない姿勢、さらには、われわれが血と汗の闘いを通してかちとってきた一切の権利を奪うものであり、この焦点を形成するものが三十五万人体制である。今回の当局による不当処分策動は、明確に『本部』反動集団の動労千葉への処分要請を受けたものであり、三里塚・反合を闘うが故のものである以上、われわれは、いまこそ団結を強固にし、こうした攻撃を許さない闘いに決起しなければならない」と闘争委員会の決意を明らかにした。

最後に武井副支部長より、動労千葉結成一周年記念講演集会、五・二五三里塚現地集会への大結集を中心とする当面の行動提起が行われ集会は終了した。

基調報告にたった、松崎支部長は、「第一に、三里塚・ジェット、反合を闘う動労千葉をどのような手段を講じても破壊せんとする当局・反動分子の共通の願望であり、五五・一〇はるか、乗務員運用合理化を積極的に推進する側に回った『本部』反動分子との対決の闘いであること。第二に、『本部』の哀訴にもとづき、動労千葉を弾圧すること、これが国鉄当局の本質、狙いである以上、総力をあげてこの攻撃を粉碎しなければならないこと。第三に、『四・一五』を全く百八十度ねじまげ、デッチ上げをもって、デマ宣伝を行ってきている『本部』反動分子と、裏切り分子二名を許さず闘いに決起すること」などが、力強い決意を含めて報告され、参加者全体の拍手をもってこれ

一方、この集会前段に目黒選挙を口実にコソコソと職場に入りこんだ「本部オルグ団」六名に対し、本部役員、支部執行部、組合員が「動労千葉に対する組織介入だ」として追及する一幕があった。「本部オルグ団」は「労働者の代表、目黒をお願いしてきた」と逃げようとしたが、「動力車新聞」で明らかにしているように、「目黒を闘うことを通して動労千葉解体、地本再建」と位置づけて動労千葉の職場へ入りこんで来る以上、「君達の行為は組織破壊攻撃である」と再度追及すると「そんなつもりはない」と弱々しく弁明したのである。「では君達は『本部』方針を否定するのか」との追及には、全く答えられずスゴスゴと逃げ帰るといふ始末であった。

四〇〇の総決起、総行動で不当処分策動を粉碎しよう!

これが路線的に行き詰るや計画的暴力襲撃を行い、それを粉碎されるや当局に弾圧・処分を哀訴し、あげくは目黒選挙を利用しての組織破壊を行う卑劣漢「本部」反動分子ならではの「オルグ」実態である。われわれは、三里塚、反合、動労大改革の路線のもと、かかる理不尽極まる不当処分策動・組織破壊攻撃を職場から怒りの総決起をもって粉碎してゆこう。

5/17 動労千葉結成一周年記念講演集会

5/25 三里塚現地大集会

5/17 動労千葉結成一周年記念講演集会
5/25 三里塚現地大集会

